



かんがえる
かんばる
やさしく
きこえる

時津町立鳴鼓小学校
学校だより R6年度第6号

令和6年7月19日
文責：校長 今井大輔

校内は足跡がいっぱい

充実した令和6年度の1学期が終了しました。4月と比べると、どの子どもどの学級もたくましく、そして、賢く成長したと感じています。

このように子供たちが成長できたのも、各家庭の支えや地域の皆様の協力があったのとです。本当にありがとうございます。

学校の中には、子供たちが、自分たちのがんばりや成長を実感できるような工夫がたくさん施されています。今回は、ほんの一部ですが、それらを紹介します。



右の写真は、1学期後半に全校で取り組んでいる「はさみある木」です。代表委員会で、「はさみ歩き」→「走らない。さわがない。右側を歩く。」を周知徹底するためのイベントをするのが決定され、運営委員会が準備して取り組んでいるものです。全校の子供たちが、お互いに「はさみ歩き」ができています。友達を見つけたら、「はさみある木」の実に名前を書きつけていくシステムになっています。毎日のように「はさみ歩き」ができた子の名前が書かれた実が増えていっています。それと同時に校内を落ち着いて歩く姿も増えています。



2年生の取組です。友達に「優しくしてもらったこと」や「嬉しいことをしてもらったこと」などをハートのカードに書いています。ハートの木が優しくあふれています。



右が3年生、左が1年生で、自分のめあてを立てて、月ごとに評価しているものです。

「できた」「できていない」を自分自身で評価することで、メタ認知力が育ちます。今後の成長にも大いに役立ちます。



5年1組は、全員で話し合って決めたことのがんばりがあった日には、クラッカーを1つ貼っていきます。人数分達成したら、みんなで祝い盛大に鳴らします。



このような「はさみある木」や「ハートの木」、クラッカーなどの取組を「トークンエコノミー法」といいます。

子供が良い行いをした時に「トークン」をご褒美として与えて、その行動に正の強化を与える方法です。特別支援教育では、よく使われるとてもスタンダードなものです。

学校内では、いろいろな所で、子供たちのがんばりの足跡を、目に見える形にすることで、子供たちのモチベーションを持続させ、達成感を味わわせる工夫をしています。

つぎやき

今年度の1学期末は、これまでとは大きく違うことがあった。自分自身も教職を30年以上しているが、初めての経験であった。

それは、成績を前後期制にしたことである。夏休み前に通知表を渡さないことである。このことに決めたことである。小中学校で統一して決定したことである。事前に各家庭にも連絡済みである。変更に関しては趣旨は、配付した文書に示していた通りである。しかし、正直、考えていた以上に効果的なことがたくさんあったことに驚いている。

変更の第一の目的であった「授業の充実」は、想像以上であった。例年であると、1学期の成績を出すために、6月後半から7月初旬にかけて、なんとか1学期の学習内容を終わらせる必要があった。そのために駆け足で授業を行ったり、テストをさせたりしなくてはいけない状況であった。

これは、自分も学級担任時代に何度も経験してきた。特に、5月の運動会の時に気合を入れ過ぎて、練習に時間を費やした時は、学期末がとて大変な思いをするのである。「あ、後3日ほしい。」「1日7時間授業にできないか。」などと思ったことが何度もあった。

今回通知表を前後期制にしたことで、1学期の最後まで、先生方がゆとりをもって学習指導をすることができていた。これは、当然子供たちにはとても良いことで、学習内容の理解も深まり、より一層の定着もできる。

保護者や子供たちの中には、夏休み前に成績表がないことを物足りなく感じる人もいるかもしれない。しかし、学校の1丁目1番地は、学力を付けることである。今回は、子供たちにとってプラスとなる大きな改革と受け取っていただきたい。そして、9月末の通知表を楽しみにしていただきたい。